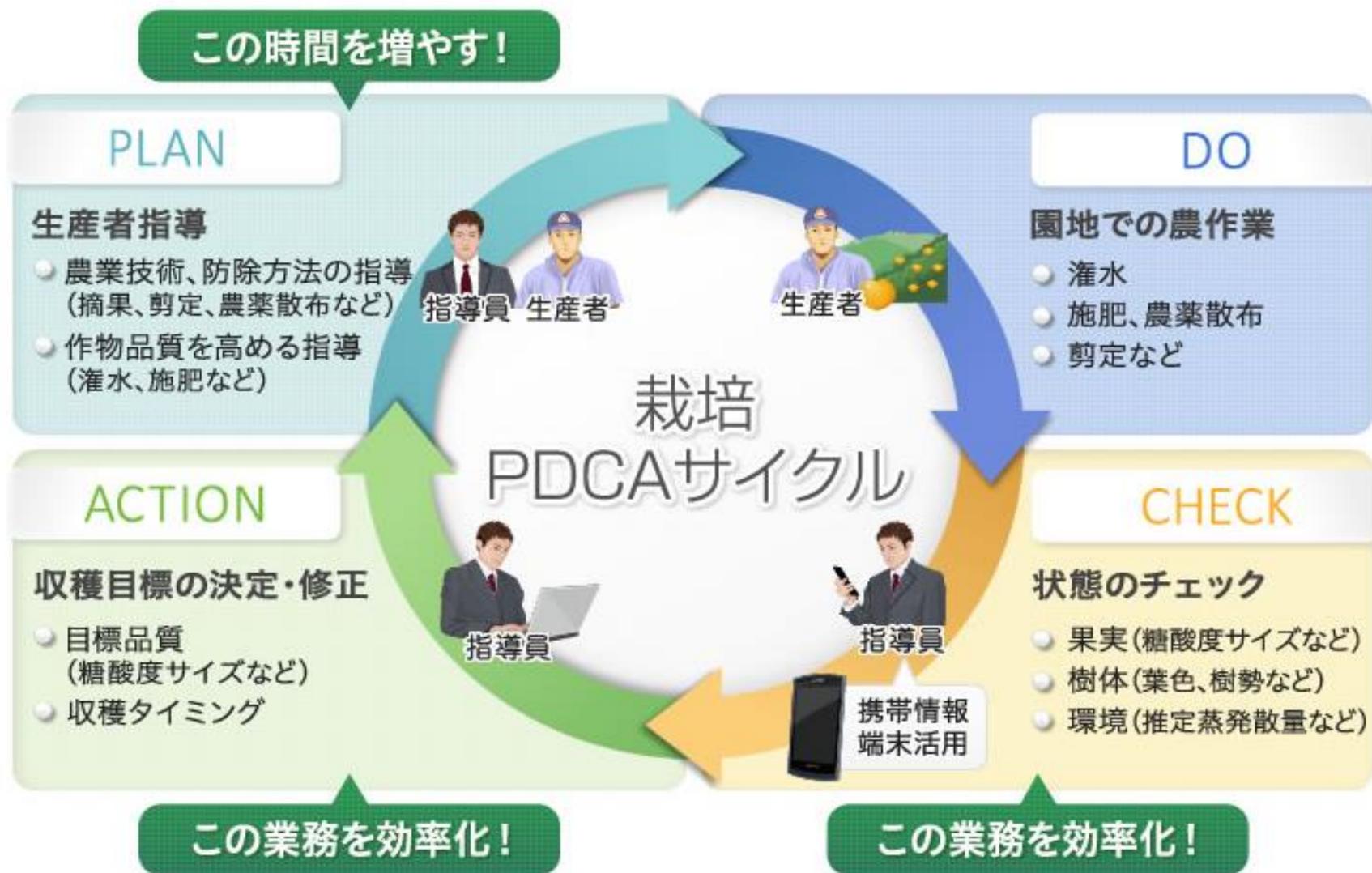


# 営農支援指導システムの概要

- I. 「NEC 営農指導支援システム」は、営農指導員の方を主な対象に、栽培営農指導にあたって必要なデータの収集・分析業務の効率化を支援するために開発したシステム。  
園地情報や農作物生育情報の一元管理機能、生産者へのレポート作成機能など、さまざまな機能を提供することで、営農指導員の事務作業時間を短縮し、栽培地(生産現場)での指導により多くの時間を配分できるよう支援すると共に、データに基づいた客観的な指導も可能。  
品質向上や収穫量UPで産地全体を底上げし、また産地のブランド化による増収を目指し、日本の産地を強くする。
  
- II. 産地における**気候変動適応策の実施経験（篤農家ノウハウ）を具体的に記録・蓄積し、近未来の適応策の検討に活用することにより、将来の温暖化への対応も可能**。また、**効果のあった対策を蓄積することで将来のリスクへの対応も可能**。（例えば気温上昇が予想される場合、効果のあった過去の対策を講じることにより未収穫や生産量減少を回避・低減することが出来る）

# 営農支援指導システムの概要



国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC：Intergovernmental Panel on Climate Change）が示す「気候変動がもたらす8つのリスク」の内、本ソリューションにより軽減できるリスク。

（「気候変動がもたらす8つのリスク」は次々ページ参照）

（冒頭の番号は「気候変動がもたらす8つのリスク」の番号に対応）

## ⑤ 気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスク

温暖化により気温は上昇傾向にあるが、過去にも気温の高い年はあった。これまでに蓄積されたデータの中から、その時の対応の中で効果のあった対応策を積み重ねることにより、**気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスクを低減、回避**することができる。

## ⑥ 水資源不足と農業生産減少による農村部の生計及び所得損失のリスク

効果的な営農を指導することにより農業生産量の拡大に寄与し、**高付加価値化して産地を強くすることにより、農家の収入の安定化に貢献**する。また、果実の大小や糖度の不足等、生育状況に応じた対応策をアドバイスすることにより、**品質を向上、安定させることで所得損失のリスクを低減、回避**することができる。

# 気候変動がもたらす8つのリスク

出典：IPCC第5次評価報告書(2014)



① 海面上昇、沿岸での高潮被害などによるリスク



② 大都市部への洪水による被害のリスク



③ 極端な気象現象によるインフラ等の機能停止のリスク



④ 熱波による、特に都市部の脆弱な層における死亡や疾病のリスク



⑤ 気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスク



⑥ 水資源不足と農業生産減少による農村部の生計及び所得損失のリスク



⑦ 沿岸海域における生計に重要な海洋生態系の損失リスク



⑧ 陸域及び内水生態系がもたらすサービスの損失リスク